

令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

国語科 2年生

1 日常の学習状況について

2年生の国語の学習状況については以下のような特徴が見られる。

- ・真面目に授業に取り組む生徒が多く、おおむね落ち着いた学習態度である。音読も必ず全員は一回行う。発言も意欲的で、自分の考えや思いを伝えることができる。
- ・発言が苦手な生徒も、少人数集団での活動を取り入れることで、自分の考えを発信することができている。
- ・「知識・技能」については、漢字の学習によく取り組み、字を丁寧に書くことができる。学習意欲の低い生徒は、『漢字の読み・書き』への苦手意識が、作文やその他の言語活動に波及している。
- ・「思考力・判断力・表現力」における『話すこと・聞くこと』については、人前に立って自分の考えを発表したり、表現したりすることに対して苦手意識をもっている生徒もいるが、おおむね相手に伝えることを意識して発表することができる。
- ・「思考力・判断力・表現力」における『書くこと』については、苦手意識をもっている生徒もおり、作文等で表現することに対して抵抗感を示す生徒もいる。
- ・自らすすんで読書を行う生徒が多く、『読むこと』については総じて基本的な学力が身についている。

2 中間考査、期末考査等の結果を踏まえて

- ・基本的な読解力が身に付いている生徒は多いが、語彙力や表現力などが不足している生徒もいる。
- ・漢字の「読み」「書き」については昨年度より正答率が下がっている。特に、「書き」については反復練習を行っている生徒とそうでない生徒の差が激しい。
- ・「記述力」については、字数制限のある問いに対して、要旨をまとめる力が身に付いてきている。問いに対する正対した答え方ができていない生徒もいる。
- ・「読解力」については、記号問題や書き抜き問題は正答率が高く、文章中から必要な部分を読む力が身に付いていることが分かった。

3 学力に関する状況

以上のことから本校の現2年生の国語の学力については以下のような傾向が見られる。

- ・授業に真面目に取り組む姿勢が整っており、自分の思いや学んだことを表現する力が身に付いている。
- ・漢字学習や基礎学習において努力を積み重ねることができる生徒が多い一方で、国語を苦手とする生徒との差が開き始めている。

4 教科の課題

(1) 学習面

- ・小学校で学習する漢字の読み書きができていない生徒に対して、定着するための工夫が必要である。
- ・書くことにおいて、自分の考えを整理して、筋道を立てて、適切な言葉で表現することが苦手としている。
- ・相手に応じて自分の考えが最も伝わる表現を目指し、語感を磨く練習が必要である。

- ・国語が苦手な生徒に対して、本文と問いを照らし合わせながら、丁寧に読み解いていく練習が必要である。

(2) 指導面

- ・一斉指導のあと、個別に指導する時間の確保が必要。
- ・提出物を出すことができない生徒への個別支援、声かけが必要。
- ・様々な話し合い活動の設定。小集団から中集団、大集団へと段階を踏んだ活動が必要。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ・辞書を引く時間を確保し、辞書を引くことに慣れさせ、語彙力を磨く。
- ・定期的に小テストを実施したりワークシートを用いるなどしたりして、基礎学力や知識を着実に定着させ、文章理解力や表現力の一層の向上を図る。
- ・漢字については、小学校で学習する漢字1006字に加え、中学1年～2年で学ぶ漢字について定期的に小テストを実施し、知識の定着を図る。
- ・多様な文章に触れることで読解力を養い、論旨を明確に捉え、深く考える力を養う。
- ・知識を活用して考える課題に取り組ませるとともに、発表や作文等の表現する学習活動を充実させる。
- ・書き方に関する指導をさらに充実させるとともに、相互評価などの交流活動を積極的に設け、互いに推敲することで、より伝わりやすい書き方への理解を促進させる。
- ・話し合いが苦手な生徒に対しては、「発表の型」を提示することで抵抗感をなくしていく。また、生徒同士の意見交換も含め、発言・発表の場を大切にし、筋道立てて説明する力を養う。
- ・朝読書の時間以外においても国語科で読書と生活とのかかわりについて考えさせる時間を作り、ブックトーク等を行う機会を設けることで語彙力、表現力の向上を図る。
- ・ICT機器を活用し、個別の学びを広げたり深めたりすると共に協働的な学びを展開する。

(2) 指導面

- ・毎時間の目標や内容を明確にすることで見通しをもたせ、生徒が理解を深められるよう、的確な発問を工夫する。
- ・机間指導をし、個別に指導できる時間を確保する。
- ・生徒同士で確認したり教え合ったりできるような「学び合い」の時間を活動に取り入れていく。
- ・体験的な学習や問題解決的な学習の機会を増やし、個だけではなく協働して課題解決に取り組む姿勢を育てる。

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和5年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 観点別学習状況の評価の学期ごとの比較
- (2) 中間考査、期末考査の結果の考察
- (3) 長期休業明けテストの実施と結果の考察
- (4) 国語科授業の生徒アンケートの活用

1 日常の学習状況について

社会の動きや世界の出来事についての関心が高く、しっかり学ぼうとする生徒が多い。さらに復習に力を入れる生徒が増え、基本的な知識・理解ができています。しかし、定着状況の個人差が大きい。そこで、指導者が授業内で復習を促す発問や定着を確認する課題を行う。常にどこにつまずきがあるのかを指導者が情報収集をする必要がある。

2 定期考査等の結果を踏まえて

- (1) 知識を問う、短答式の問題や地形の小テストなどは家庭学習や授業での反復学習により定着度が高い。
- (2) 思考・判断・表現を問う、記述式や選択式の問題は生徒により理解度に大きな差が見られる。
- (3) 技能を問う、図表やグラフの読み取りは、特色や傾向を読み取るときに生徒間で差が大きい。

3 学力に関する状況

授業では、基礎基本となる知識・理解をおさえつつ、興味・関心がもてるような具体的な視聴覚教材を提供し、意欲的に授業に取り組む姿勢を養っている。また、毎時間、学習内容をわかりやすくまとめた授業プリントを作成している。ほとんどの生徒が授業だけでなく、復習やテスト勉強に授業プリントを活用している。授業中の話をプリントにメモする生徒も多く、授業に集中して取り組もうと努力する生徒、学習意欲の高い生徒が多い。

4 教科の指導上の課題

(1) 学習面

グラフや図などを読み取り、年表などを活用して、資料活用能力や考える力を伸ばす学習をより進めていくことが必要である。

(2) 指導面

① 以下のような指導を行ってきたことについては成果が上がったものとする。

- ・ 単元ごとの授業プリントをノートの代わりとして活用したこと。
- ・ 授業プリントに「調べよう」「考えよう」「読み取ろう」など課題を取り入れたこと。
- ・ 資料を活用してのレポートまとめなど、継続的に課題に取り組ませたこと。

※授業評価アンケートの「板書やプリント、ICT 機器の活用等が工夫され、理解が深まる」の項目に 84.4%の生徒が「そう思う」と答え、「ややそう思う」までを入れると約 99%となる。
今後も授業プリントの工夫やデジタル教科書の活効果的な活用を継続していく。

②指導面での問題点・今後の課題として、以下のことが挙げられる。

- ・ 「思考・判断・表現」能力をより伸ばすため、考えを主体的にまとめるなどの課題の難易度を少しずつあげる。
- ・ 小テストの取組が不十分な生徒に対する個別指導を行う。
- ・ 家庭学習が定着するよう、復習の仕方、単元ごとのまとめ方など、学習方法の指導を行う。

5 改善の計画

(1) 学習面

- ① 授業進度に遅れが生じないように、計画的な授業展開を進めると共に、授業時数の確保に努める。
- ② 社会科に対する興味関心を一層深め、発問の工夫や課題を解決するための意見交換や発表などによって、生徒が主体的にかかわる授業に努める。
- ③ デジタル教科書や視聴覚教材などの ICT 機器を積極的に活用し、内容理解を助けていく。

(2) 指導面

- ① 生徒の興味関心を高めるよう教材の開発、指導能力の向上に努める。
- ② 生徒の主体的な学習を重視し、資料活用能力や、思考力・表現力の育成を重視し、地理的・歴史的資質を養う。
- ③ 言語活動を積極的に取り入れた指導計画に基づいた授業を行う。

6 プランの評価方法

- (1) 定期考査・小テスト・日常の授業の見取りにより、生徒の到達度を測る。
- (2) 資料を読み取る力、知識を活用する力、主体的に問題を解決しようとする力などが育成できたかどうかを定期テスト等で確認し、指導の参考とする。
- (3) 授業評価アンケート等を踏まえながら、生徒の理解度や授業内容の確認と改善を行う。

令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

数学科 2年生

1 日常の学習状況について

2年生の数学の学習状況については以下のような特徴がある。

- (1) 基礎的な四則計算は身に付いている。分数や小数の混ざった計算問題ではミスがある。
- (2) 「式の計算」「連立方程式」「1次関数のグラフ」の基本的な計算は身に付いている。しかし、小数・分数を含む計算問題や連立方程式の利用「道のり・速さ・時間」「割合」の問題などは、定期テストの結果からも定着していない。1次関数「変化の割合とグラフ」も1年生での比例の関係から身に付いていない生徒が多く、変化の割合と傾き・グラフの関係の理解が不足している。
- (3) 「数学的な見方、考え方」を必要とする問題を解く力は不足しており、利用問題（文章問題）が身に付いていない。

2 中間考査、期末考査等の結果を踏まえて

- (1) 正負の計算などの基礎基本が定着していない生徒も多く、正負の四則計算（小数・分数）から未定着がある。
- (2) 等式変形や1学年図形での立体図形で特に円錐の表面積・体積（側面積「おうぎ形」に関する計算）計算、球の表面積、体積での公式の活用した計算で理解不足があった。

3 学力に関する状況

以上のことから本校の現2年生の数学の学力については以下のような傾向が見られる。

- (1) 基本の計算問題、特に整数の計算はできるが、分数・小数の計算、利用問題の割合、速さ問題や1次関数の変化の割合とグラフに対して苦手としている。
- (2) 1年次の図形に関しての問題（空間図形の展開図や展開図を使つての面積計算等）の解き方を忘れている生徒が見られる。

4 教科の課題

(1) 学習面

- ・文章題などの問題内容から式にする解法について、ワークや長期休業中の課題から繰り返しの学習を行い基礎基本の定着を図る。
- ・定期考査前の質問教室等を利用して、苦手になっている生徒の理解向上を図る。

(2) 指導面

- ・問題集を提出させることで生徒の問題演習の機会を設けている。理解しないままの提出や未提出の生徒に対しての対応を検討する。
- ・一斉指導での理解力が低く、個別指導を必要としている生徒へは、学習支援ボランティア等の活用を進める。
- ・理解度を確認するための確認テストを実施する。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ・ 50分の取組で何を理解しなければならないのかがわかるよう本時のめあてを明示する。
- ・ 基礎基本を重点にして、問題集を活用し繰り返しの練習に取り組む。
- ・ 理解の速い生徒へは、発展的な学習内容も取り組めるよう問題集のB（発展課題）を活用する。

(2) 指導面

- ・ 質問教室を通して、個別指導を行う。
- ・ 夏休みの課題（夏トレ）で基本的な計算問題の反復練習を行う。振り返りを重点に取り組む。
- ・ 夏休みに学習教室（夏トレ）で1学期の基礎基本の復習を行う。
- ・ 学期単位で理解度確認テストを実施する。（各個人の理解度確認）

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和5年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 夏休み明け理解度確認テストの結果
- (2) 中間考査、期末考査の結果
- (3) 単元まとめプリントの内容
- (4) 教科授業のアンケート

令和5年度 小平市立小平第三中学校 授業改善推進プラン

理科 2年生

1 日常の学習状況について

学習に意欲的な生徒が多く、落ち着いた態度で授業に取り組んでいる。また話し合い活動にも積極的に取り組み、互いの考えを共有し学習を進めることができる。課題等の提出状況は良好であるが、提出できない生徒が限定されている。またノートの作成についても多くの生徒が板書を工夫して書き写すことができている。ワークやプリントで問題演習等を通して復習に十分に時間をかけて定着を図れる生徒は少ない。

2 学力調査等（定期考査）の結果の教科別・観点別分析

問題演習を通して定着の振り返りをする時間をつくることができたが、理科のワークの内容と同じような問題でも、思考をともなう問題や数学的な文章問題については、正解率が低く、暗記すべき物や一般的な問題については正解率が高かった。課題は読み取る力・解決する力の2項目である。文章理解、問題解決能力の向上を身に付ける授業展開を導入していく。

3 学力に関する状況

- (1) 思考・表現に関する問題は、取り組み不足が現れており、十分に定着されていない。
- (2) 最近学習した学習内容は定着している部分もあるが、時間が経つと復習問題の正答率が低く、再度復習が必要である。
- (3) 「なぜそうなるのか」を聞く質問に対して説明することなどが苦手な生徒が見られる。説明に対する苦手意識を減らすため、一つ一つの質問に丁寧に答えさせ、自信をつけさせていく。

4 教科の指導上の課題

- (1) 実験装置の取り扱いなどに関して、定期的に実技テスト等を行うことで技術を向上させる。それにより実験へ取り組む意欲を高め、安全面に気をつけさせていく。
- (2) 分かりやすい説明や指示、取り組みやすい課題によって注意が散漫にならないようにすること、一人一人が実験の予想や考察など、考える場面を積極的に設定していくことが課題である。

5 改善の計画

- (1) 現行の授業展開を今後も継続していることで、生徒の取り組む姿勢を深化させていきたい。
- (2) 実験観察の授業では、使用する薬品等も多様化しているので安全面に配慮した指導を実践する。
- (3) 学習者用端末の有効活用を推進するとともに、調べ学習を取り入れた課題を提供し、評価していく。

6 プランの評価方法

- (1) 授業の取り組み状況や生徒の自己評価を基に事象への興味や関心、学習内容の理解度を確認する。
- (2) 定期考査や確認テストなどの結果を比較分析する。

令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

音楽科 2年生

1 日常の学習状況について

2年生の音楽科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

- (1) 授業への取り組みは積極的に取り組む姿勢が多く見られる。
- (2) 自己評価表を記入することにより、理解や表現、技術の向上など一人一人が授業を振り返ることができているまた、教師からも個々のアドバイスもできている。理解や表現、技術の向上について、個々へのアドバイスができている。
- (3) 鑑賞の授業では、作曲家や楽曲の解説等を ICT の授業として動画を活用している。鑑賞の能力については豊かな創造性で素直に表現できており、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかにできる生徒が多い。
- (4) 新型コロナウイルス感染予防により、1学期に「アルトリコーダー」の授業が行えなくなったために「リズム練習」を行った。「リズム練習と表現」については、「基礎的」・「発展的」なリズムの表現は良くできていた。

2 授業での生徒の様子を踏まえて

- (1) 本時の目標やねらいをホワイトボードによつての提示を行っているが、より細かくわかりやすく説明を行う必要がある。また、鑑賞以外での ICT 機器の使用を効果的に取り入れた授業に取り組む必要がある。

3 学力に関する状況

1より、本校の現2年生の音楽科の学力については、以下のような傾向がみられるものとする。

- (1) 関心意欲は高く、積極的に取り組める。「歌唱・合唱」の授業では音楽祭とタイアップさせ、パート練習や発声練習など、主体的に活動し、お互いを高め創意工夫していくことがこれからの目標となる。
- (2) 表現の工夫に関しては、音楽表現に対する思いや意図を素直に表現できる生徒が多い。正確なリズム表現と「歌唱」や「器楽」での豊かな表現力を身に付けさせる。
- (3) 定期考査により、授業での内容・質問、ワークシート学習をすることにより、多くの知識を高めることができる。

4 教科の課題

(1) 学習面

- ①「鑑賞」では音楽表現の共通性や固有性を自分なりに考え、曲想と音楽の構造との関わりを理解できるような授業の進め方、教材やタブレット・ワークシート等の使用が必要である。
- ②「歌唱・合唱」は、発声・言葉の発音・身体の使い方等、また「器楽」では、身体の使い方等の創意工夫を生かし、曲にふさわしい表現ができるための技能を身につけさせる必要である。
- ③「リズム練習」と「アルトリコーダー」については、正確なリズムでの表現ができるように細やかな指導に取り組むようにする

- ④鑑賞能力を高めつつ、音楽的な表現力にもつなげ、曲の構成、歌詞の内容、表現、豊かな響きの感覚を味わわせ、ハーモニーの感覚を身に付ける。

(2) 指導面

- ① 「鑑賞」の授業における「曲の構成」に注目することや「曲想の変化」を感じ取ることができていた。また、「オペラ」を親しみその良さを味わうことができ、「鑑賞」への意欲が高まった。
- ② 「歌唱・合唱」、「アルトリコーダー」では、技術を高め、正確な音高と曲想に合った表現力を作れるようにする。また、自分の思いをことばや文章、楽器で表現できるように指導していく。
- ③ 「リズム練習」の指導を全学年統一したものにしていくことにより豊かな合唱や器楽の表現に繋げていきたい。

5. 授業改善について

(1) 学習面

- ①授業に対して、また表現に対して自分なりにどう取り組めたか、自己評価できるようなものを作り、フィードバックを通して音楽の表現を高める。
- ②特に「鑑賞」の授業ではホワイトボードやDVD等の視聴覚教材を多く活用して動画等での視覚的な解説によってより理解を深めていく。

(2) 指導面

①指導計画の見直し

実際の授業の進み具合をもとに柔軟に指導計画の見直しを図り、無理のない指導計画を実施する。

6 成果の確認

成果については、「定期考査の正答率」や「音楽授業の評価」など確認をして改善を行う。

令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

美術科 2年生

1 日常の学習状況について

- (1) 授業への取組は、多くの生徒が意欲的に行うことができる。
- (2) 発想や構想をふくらますことができず、表現活動に結びつきにくい傾向にある。
- (3) 美術に関する知識の理解は概ねできている。

2 授業での様子を踏まえて

授業内容や授業プリント等について、おおむねしっかりと取り組んでいる。
制作活動で苦手意識をもっている生徒が多く、課題に対し継続して取り組めない状況がある。

3 学力に関する状況

- (1) 授業への取組は、集中して取り組む生徒が多いが、継続した課題を苦手な生徒がいる。
- (2) 発想したことから構想を練る段階で戸惑う生徒がいる。
- (3) 定期考査では、基礎的な知識・技能が定着していない状況がみられた。

4 教科の課題

- (1) 学習面
 - ①課題ごとのつながりの意識がなく、積み重ねができていない状況がみられる。
 - ②基礎的な技能が定着していない状況がある。
- (2) 指導面
 - ①アイデアを考える段階で手が止まってしまう、その後の制作に支障が出る生徒がいる。
 - ②単純な形に置き換えて説明し、図示しても理解が深まらない場合がある。

5 授業改善について

- (1) 学習面
 - ①単元の目的を明確にし、考え方や技能面のつながりをわかりやすく伝える。
 - ②題材の工夫を行い、基礎技能の定着をはかる。制作作業の目標を明確に設定する。
- (2) 指導面
 - ①鑑賞を通して、発想を広げるための題材を準備する。
 - ②技法や制作手順などを、タブレットや実物投影機等の ICT 機器を用いて説明する。
 - ③単元内容を改善し、意欲的に取り組める内容や導入を工夫する。意見や疑問を出しやすい雰囲気を作り、全体で共有し、理解を深める。

6 成果の確認

年度末に実施する授業評価アンケート、及び作品の評価により検討する。

1 日常の学習状況について

- (1) 全体的に授業への参加状況は良く、体育委員を中心に集団行動や準備運動を行うなど日頃の授業から積極的に取り組んでいる。
- (2) 一般的に言われている、基礎体力の低下が課題である。
- (3) 授業中の前向きな発言がみられ、意欲的に授業に取り組み、学び合おうとする積極的な行動がみられる。
- (4) 単元によって、個々の運動能力や運動体験の差が顕著に表れる。

2 体力調査・アンケート等の結果を踏まえて

- (1) 基礎体力の向上。ストレッチ体操や補強運動を正確に行い、柔軟性、筋力の強化を図る。
- (2) 授業のねらいをはっきりと提示し、目的意識をもって授業に取り組めるようにする。
- (3) 学習成果がよくわかるよう学習カードの活用や、学習者用端末の効果的な活用をしていく。

3 体力に関する状況

- (1) 全体的に、保健体育学習への興味関心は高く、積極的な態度で臨むことができる。
- (2) 運動に参加する意欲は見られるが、基礎体力が伴っておらず、運動を継続させることに課題がある。
- (3) 運動や健康・安全に関する知識や、自己管理能力が徐々に身に付いてきている。
- (4) 仲間と共に協力して運動に取り組む姿勢が出来てきている。

4 教科の課題

- (1) 学習面
 - ①日常生活の中での体を動かして人と競いあう機会が減少してきている。これにより習い事で日頃からスポーツをしている生徒とそうでない生徒との間に運動体験の差がある。
 - ②運動や健康・安全に対する意識の定着を図り、基本的なルールやマナーを身に付ける。
 - ③単元に応じて、安全面に配慮し、ねらいに準拠した指導を行う。
- (2) 指導面
 - ①運動が「好き・得意」な生徒が「嫌い・不得意」な生徒がともに教え合い、学び合える環境をつくる。
 - ②集団行動を重んじると同時に、安全への配慮を意識した指導体制を整える。

5 授業改善について

- (1) 学習面
 - ①授業の開始時と終了時の集合、整列、あいさつを機敏に元気よく行う。
 - ②運動に対する苦手意識をなくすために、ストレッチ体操や種目に合わせたウォーミングアップを取り入れ、基礎体力の向上と運動の基本的な技能の向上を目指す。
 - ③ペア・グループ学習の中で、学習者用端末を活用し、運動の比較・考察を行い、理解を深められるようにする。また集団で学びあう中で運動の基本的なルールやマナーを身に付けるとともに、協力してできるようになった成功体験が味わえるような授業をする。
 - ④学習カードを活用して、体育学習における自身やグループの課題を見つけ課題解決のために努力や工夫ができるようにする。
 - ⑤保健分野では「健康な生活と病気の予防②」「傷害の防止」に重点に置き、生涯を通じて自他の健康や安全を管理する力を身に付ける。
- (2) 指導面
 - ①指導のねらいを明確にして授業を行い、一人一人の達成状況を授業観察や学習カードから教員が把握し、スモールステップで生徒が課題解決に主体的に取り組めるようにする。
 - ②ペア・グループ学習、体ほぐしの運動などを取り入れ、仲間と共に積極的に学び合える環境をつくる。
 - ③集団行動を徹底し、ケガの防止だけでなく仲間のことを気に掛け合いながら、質の高い学習ができるようにする。
 - ④補強運動とウォーミングアップの充実を図り、授業指示や準備を工夫し運動量を増やすよう努力する。

6 成果の確認

2学期にアンケートを実施して評価する。また、スポーツテストの結果を生かし総合的に体力をつけていく。

令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

技術・家庭科 2年生

1 日常の学習状況について

2年生の技術・家庭科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

- (1) 全体的に意欲的に授業に取り組んでいる。
- (2) 課題提出や技能面でサポートが必要な生徒が各クラスに数名いる。

2 期末考査等の結果を踏まえて

記述問題やグラフの読み解きの正答率が低い。

3 学力に関する状況

1・2より、本校の現2年生の技術・家庭科の学力については、以下のような傾向が見られる。

- (1) 主体的に考え行動することが難しい生徒が一定数いる。
- (2) 経験不足のため、一つ一つの作業に時間を要する。

4 教科の課題

(1) 学習面

実生活における実践的、体験的な活動が不足している生徒が多く、基礎的な知識・技能との結びつきが弱い。

また、その結果として実習の際の技能や表現力の向上に結びつかない。

(2) 指導面

技能面でサポートが必要な生徒への配慮が欠けている。また、知識を定着させられるような授業展開ができていない。

5 授業改善について

(1) 学習面

① 実践的、体験的な活動の導入

実践的、体験的な活動（実験・実習等）を積極的に取り入れ、知識と技能とが有機的に結びつくようにする。

② 振り返りの時間の確保

学習内容に対して分かったことを自分なりにまとめ、知識が定着するようにする。

(2) 指導面

① 特別支援教育の視点に立った教材提示

特別な支援の必要な生徒など個別に配慮が必要な生徒が、授業を受ける際に理解できるように、学習内容の提示方法を工夫する。また、実習の際は手順を何度でも確認できるようにICTを活用する。

② 安全指導の徹底

実習の流れを準備段階から提示し、見通しがもてるようにする。

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和5年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 観点別学習状況の評価の学期ごとの比較
- (2) 期末考査の結果や作品

1 日常の学習状況について

- (1) 多くの生徒が真面目に取り組むことができる。個別での活動では積極的に課題に取り組もうとし、全体的な活動になると、活気がある。
- (2) スペリングコンテストなど、課題を設定すると意欲的に取り組むことができる生徒が多い。
- (3) 基礎・基本の定着が課題となる生徒が一定数おり、授業中の取り組みだけでなく、家庭学習につながる取り組みを定期的に考えていく必要がある。

2 定期考査を踏まえて

- (1) 中間考査では、一年生の復習、when / if / that 等の接続詞、助動詞 may、買い物の表現の作文を出題した。学習の達成度には差が見られた。
- (2) 長文問題での質問に対する応答が英語で出来ない生徒が多かった。
- (3) 単語を確認する問題は概ねできていた。
- (4) 期末考査では、不定詞を用いた英作文の作成を出題した。中間考査の結果と比べて英文を書く生徒が多くなり、取り組む姿勢は見られた。

3 学力に関する状況

- (1) 知・技 : 英語を聞いて理解することに対して得意な生徒が多い。一方、文法事項が増えたことで、知識を活用して読んだり書いたりする活動に苦手意識を持っている生徒がいる。
- (2) 思・判・表 : 新出文型を用いたコミュニケーション活動に積極的に取り組み、会話活動に取り組むことができる。反面、既習事項が混ざると困難に感じる様子が見られる。英作文を書いたり、話したりすることには意欲的な生徒が多い。
- (3) 主体的に取り組む態度 : ほとんどの生徒がテスト後、どのように学習に取り組んでいたか、振り返ることが概ねできている。

4 教科の課題

- (1) 知・技 : 文法の定着が不十分である。
- (2) 思・判・表 : 英語で表現しようとする意欲は高いが、日本語の文型に英単語を当てはめてしまう傾向がある。まず基本的な英文を繰り返し練習することで、英語の文型、表現を身につける必要がある。
- (3) 主体的に取り組む態度 : 学習の振り返りを行うことで、学習の仕方の見直しを徹底させたい。

5 授業改善の計画

- (1) 知・技 : 既習事項の復習を継続的に行う。授業開始時の帯活動で、単語テストを実施したり、教科書の文の音読や、書く活動を取り入れたりすることで基礎の定着をはかる。また長文読解については、時にペアワーク、グループ活動を取り入れ、協力して取り組むことで長文に対する苦手意識を減らしていきたい。
- (2) 思・判・表 : 授業中に自己表現の文を1～2文書き、英作文に慣れさせ、苦手意識を減らしたい。
- (3) 主体的に取り組む態度 : 生徒が英語を話す機会をできるだけ多く設け、意欲的に会話活動ができるようにする。授業の振り返りシートを活用し、学習の振り返りを習慣化させたい。

6 計画の評価方法

- (1) 知・技 : 定期テストの結果、リスニングテストの結果、スペリングコンテストの結果
- (2) 思・判・表 : 定期テストの結果、リスニングテストの結果、スピーチテストの結果
- (3) 主体的に取り組む態度 : コミュニケーション活動の様子、振り返りシート、提出物等

1 日常の学習状況について

- (1) 道徳の年間指導計画に沿って、すべての学級が同じ内容項目、同じ題材を、教科書や道徳ノートその他の教材を利用して指導している。道徳ノートを1年間継続して活用し、生徒の授業前と授業後の変容を見取っている。小グループでの意見交換なども取り入れている。意見交換をする際は、様々な考えがあることを生徒たちに実感させるように指導している。
- (2) 「考え、議論する」授業に結びつけていくために、以下のような流れで指導し、定着を図っている。
 - ①価値項目を確認し、題材に触れ、教師の発問に対して自分の考えをまとめ、小グループで意見交換をさせる。
 - ②それぞれのグループの発表から、より多くの他者の考えに触れ、発表を通して感じたことをプリントにまとめさせる。
 - ③その後、自分の考えを振り返り、深めさせる。

2 日頃の学校生活の様子を踏まえて

- (1) 1学期は、「よりよい学校生活、集団生活の充実」、「自主、自立、自由と責任」、「思いやり、感謝」「社会参画、公共の精神」、「生命の尊重」などの価値項目について理解を深めた。
- (2) 理解を深めた内容を、日頃の学校生活やその他の場面で生徒たちが生かし、よりよく生きることができているかどうか、認め、励ましている。

3 教科の課題

- (1) 学習面
 - ・主な教材として教科書を活用するため、「1つの発問に対して答えが1つ」という先入観にとらわれる生徒もいる。道徳の発問を自分ごととしてとらえ考えさせ、グループで議論することでさらに考えを深化させるイメージをもたせることが必要である。
- (2) 指導面
 - ・指導案を参考に、発問の内容、生徒意見の吸い上げ方、終末の締めくくり方などの指導力、実践力の向上を図る。

4 授業改善について

- (1) 学習面
 - ・道徳ノートを1年間活用し、年間通じて生徒の変容を見取ることができるようにする。
- (2) 指導面
 - ・学習後、授業プリントの内容を丁寧に読み取り、生徒一人一人の変容を適切に評価する。
 - ・指導方法を話し合い、指導者が学級の実態に即して指導できるように指導技術の交流、向上を図る。
 - ・学習者用端末を使って、生徒たちの議論の結果を瞬時にフィードバックする技術を習得する。
 - ・道徳の評価の考え方・進め方について、PDCAサイクルで指導の効果を上げていく。

5 成果の確認

- (1) 道徳ノートを授業者がすぐに評価・分析し、生徒の変容を確認していく。
- (2) 授業アンケート並びに学校評価において、道徳の授業について生徒・保護者アンケートを実施する。